

こういき通信 第72号

平成29年度 上益城郡EMIS入力操作研修に参加して。

EMISとは…広域災害 救急情報システム (Emergency Medical Information System) の略語で、その機能は、①患者受け入れ情報の集約や提供、②災害時における最新の医療資源の提供、③災害発生時における医療機関情報の集約や提供、④医療機関から派遣されるDMAT等の活動状況の集約や提供 などです。

平成29年11月16日(木)に御船保健所主催のEMIS入力操作研修が行われました。今後想定される大規模災害に備えるため、御船保健所管内の12病院と上益城消防が参加しました。当院にはEMIS入力操作指導の依頼があり、矢部広域病院DMAT隊5名で担当しました。

参加された方はインターネットに接続できるPC(パソコン)に、災害が発生した際のライフラインなどの被害状況を実際に入力し、その入力した情報をもとにどのように閲覧し、災害対策本部などと共有していくのかといった訓練に真剣に取り組まれていました。

今後、もし大規模災害が発生した時は、保健所と災害拠点病院である当院を中心として、管内医療機関、医師会、消防、町等と連携し、地域の災害保健医療対応に取り組んでいけるようにしていきたいものです。

文責：事務部 医事課 課長 坂本 清子 (START委員会)



院内感染対策 職員研修会 ～ 冬場の感染対策Q&A ～

冬場に多い感染症の代表としてインフルエンザやノロウイルス感染症が挙げられます。特に医療現場のスタッフが感染することで、職員から患者、または職員から職員へ伝播するだけでなく、最悪の場合、医療機能がストップしてしまうことが危惧されます。このような危機に陥らないためには、日頃からの健康管理と、院内感染に対する知識の取得、手洗いや手指消毒を中心とした感染対策が必要になってくると思います。



そこで、12月19、20日に『冬場の感染対策Q&A』と題して、万が一インフルエンザやノロウイルスに感染した可能性がある場合に、どのように対応するべきかをテーマに研修会を開催しました。

『同居中の家族がインフルエンザに感染しており、自分自身には症状がないが勤務して良いだろうか』、『下痢症状を有する乳児のオムツ交換を行い、自分自身にも症状が出てきたが出勤して良いだろうか』といったケースをグループワーク形式で討議し、出勤の是非、必要となる感染対策などをグループ毎に発表しました。発表後にはICT委員から詳しい解説もあり、参加者の理解も更に深まったようでした。冬場の感染症の流行期を前に研修会を開催することができ、とても有意義なものとなりました。

文責：検査科 科長 井手 絹代 (院内感染管理者)

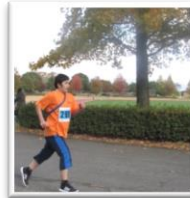


平成30年 3月発行

矢部広域病院 広報委員会
編集担当：増田 尚美 (療養病棟)
上田 玲子 (事務部)

第5回 熊本リレーマラソン

11月23日に熊本リレーマラソンに参加しました。矢部広域病院チームは21名で1周2kmのコースをタスキリレーし、42.195kmを走り切りました。結果は約500チームの参加があり、367位という順位でした。競技中は、皆で応援し合い、写真を撮ったり、ハイタッチをしたり盛り上がり楽しんでました。また、他の部署の方々とコミュニケーションをとる事ができ、とても良かったと感じました。



次回も参加する機会があれば、今回3週間前から始めた事前練習を1か月前からにし、自己タイムを伸ばしたいと思っています。皆さん大変お疲れさまでした。

文責：栄養課 藤岡 真広 (日清医療食品)



平成30年 新年会・新年特別講演会

新年会前、毎年恒例の新年特別講演会に、熊本県庁 健康福祉部 健康局 国保指導監査医である岳中耐夫先生をお招きし『2025年問題と医療・介護』という演題でご講演を頂きました。

我が国の“健康で自立して生活できる健康寿命”は世界第1位であり、国民は誰もが分け隔てなく医療を受けられるという恵まれた環境の元で生活しています。しかし2025年には団塊の世代が75歳以上となる一方で総人口は減少するといわれている中、75歳以上の人口が急増し、医療・介護にかかる費用が増加することが推測されます。その対応策として、国民は病気になる事が大切で、生活習慣病の予防に努め、健康を維持し長生きするよう努力することが大切だと言われました。講演を聞いて、いつまでも健康で長生きするためには、運動をしたり食事に気を付けたりすることが大切だと思いました。

文責：療養病棟 看護師 河津 春美

平成30年 矢部広域病院新年会を1月20日(土)本さつまやで執り行いました。ご講演をいただきました岳中先生をはじめ、多数の来賓の方々にご出席を賜り、今年一年始まりの素晴らしい会となりました。

院長先生より、今年の標語「僥倖(ぎょうこう)」についての話があり、自分も患者様に“安心・安全”を提供し、幸せを感じてもらえるような医療人になれるよう心掛けていきたいと思いました。また、勤続40年の表彰を受けられた平田看護師より、



当院の軌跡やその当時の想いなどが語られ、とても感動しました。私もそんな先輩方を見習いたいと思いました。

今回、つたない進行役ではありましたが、皆様のご協力のおかげで無事務め終える事が出来ました。ありがとうございました。

文責：検査科 主任 角田 和美